



完成予想図(全景)



シンガポール 国立美術館 保存再生工事

株式会社竹中工務店 シンガポール国立美術館保存再生工事業所 作業所長

高尾 全

Tamotsu Takao



はじめに

シンガポール共和国は、一九六五年の建国以来、安定的に成長しており、一人当たり名目GDPは二〇一〇年に日本を抜いてアジア一位となり、二〇一二年でも一位を堅持（世界ランキングでは一〇位、日本は一三位）しています。

この著しい発展の背景の一つに、長期的な都市計画があります。計画には、歴史的な建造物の価値をいかに高めるかを模索し、有効活用を進めることも盛り込まれており、保存地区の指定や、地区内の開発・建築行為の規制が行われています。

プロジェクト概要

今回紹介するプロジェクトは、二〇一五年に建国五〇周年を迎えるシンガポールの国家的記念事業として位置づけられており、シンガポール中心部のイギリス統治時代の建物が残るシビックエリアにおいて、「旧市庁舎」（一九二九年完成）と「旧最高裁判所」（一九三九年完成）という二棟の歴史的建造物を大規模改修し、新国立美術館「シンガポールナショナル・アート・ギャラリー」として保存・再生する工事です。新美術館は、東南アジア美術の展示を中心に、子供ギャラリーなどのコーナーも設けられる予

工事の内容

延床面積が七〇、〇〇〇平方メートルに及ぶプロジェクトでは、「旧市庁舎」と「旧最高裁判所」の二棟を地下階及び最上階に設けられたガラス屋根、渡り廊下によってつなげます。また、外壁すべてと建物内部の一部を空中に残しつつ、新たに地下三層を増築し、地上躯体をつくり替え、同時に外壁すべてと一部の重要室の保存再生工事を行います。中でも「旧市庁舎」は、一九六五年のマレーシア連邦からの独立宣言が行われた歴史的価値が極めて高い大広間が存在し、その保存は今回の工事における最重要課題となっています。



完成予想図(メインエントランス)

旧最高裁判所、旧市庁舎の建築表現を保ちつつ、国際的アートの殿堂として、またシンガポール国民に親しまれる文化の象徴として甦らせ、歴史とモダンテイを統合した独創的かつ多くの人を温かく迎える空間づくりが求められています。

工事の特徴

地下工事は、マリנקレーと呼ばれるN値ゼロの軟弱地盤上に建つ既存建物を、仮の新設杭と基礎梁で支えながら、地下一七層まで逆打ちで構築する難易度の高い工事です。また、地下部分は敷地外の外周道路の地下まで伸びており、交通への影響を最小限にしながらの工事が求められています。

「旧市庁舎」においては、外壁すべてと三階の歴史的ホールを空中に保持しながら、既存躯体を解体し、地下を掘りながら同時に地上躯体を進めるといふ、日本国内でも経験の少ない難しい施工が要求されています。保存外壁はレンガ積みの壁及びPC版で構成されており、ファスナー等により構造体に支持されていないため、この外壁にダメージを与えずに残して、内部を解体するための外壁鉛直保持、水平保持の対策が求められました。旧市庁舎重要室支持についても一旦施工のために仮杭、トランスファープ

おわりに

工事は現在、四年の全体工期のうちの三年目に入り解体工事は終了、「旧市庁舎」では今まさに外壁一枚だけが残っており、空中保持している歴史的ホール以外、外壁の内側は空洞という状態になっています。これからいよいよ新国立美術館新設の工事が本格化していきます。



上/完成予想図(ルーフトッププラザ)
下/完成予想図(内観)